

プログラム名	対象とする研究開発課題	研究開発経費※ (年度当たりの上限額)	研究開発期間	備考
重点領域型研究開発 (ICT重点研究開発分野推進型)	情報通信審議会「新たな情報通信技術戦略の在り方」第1次中間答申(平成27年7月28日)及び第2次中間答申(平成28年7月7日)を踏まえ、IoT/BD/AI時代に対応して、技術実証・社会実装を意識した、新たな価値の創造や社会システムの変革をもたらすICTの研究開発課題	【3年枠】 フェーズⅠ： 300万円 フェーズⅡ： 1,000万円	フェーズⅠ：1か年度 フェーズⅡ：最長2か年度	平成30年度から
	※ 3年枠：基礎的な段階からのボトムアップ的な研究開発を想定 2年枠：早期の実用化及び社会展開を目的としてフェーズⅡより実施	【2年枠】 フェーズⅡ： 2,000万円	フェーズⅡ：最長2か年度	フェーズⅡのみ
ICT研究者育成型研究開発 (中小企業枠)	(中小企業枠) ICT分野の中小企業の斬新な技術を発掘するために、中小企業の研究者が提案する研究開発課題。	【中小企業枠】 フェーズⅠ： 300万円	フェーズⅠ：1か年度	フェーズⅠのみ
電波有効利用促進型研究開発	(先進的電波有効利用型) 電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズⅠ： 500万円 フェーズⅡ： 3,000万円	フェーズⅠ：1か年度 フェーズⅡ：最長2か年度	フェーズⅡへの提案も募集
	(先進的電波有効利用型(社会展開促進型)) 電波を用いたIoTシステムの構築や社会展開を促進し新たなワイヤレスビジネスの創出を意識した研究開発課題	フェーズⅡ： 3,000万円	フェーズⅡ：最長2か年度	フェーズⅡは提案内容によって評価の項目が異なる。
	(若手ワイヤレス研究者等育成型) 若手研究者又は中小企業の研究者が提案する電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズⅠ： 500万円 フェーズⅡ： 1,000万円	フェーズⅠ：1か年度 フェーズⅡ：最長2か年度	若手研究者(39歳以下等)、または中小企業研究者

※別途間接経費(直接経費の30%を上限)を配分。

平成30年度の主な変更点

重点領域型研究開発（ICT重点研究開発分野推進型）の拡充

重点領域型研究開発（ICT重点研究開発分野推進型）プログラムの中に、基礎的な段階からの研究開発課題について、地域ICT振興型研究開発の理念も包含する「3年枠」を設定。従来の研究開発成果の早期の実用化及び社会展開を目的とした研究開発については、「2年枠」として募集。

対象： 大学、高等専門学校、民間企業、公的研究機関、NPO等の非営利団体等の研究者

【3年枠】

期間： フェーズⅠ：1か年度、 フェーズⅡ：最長2か年度

費用： フェーズⅠ：300万円、フェーズⅡ：単年度1,000万円（直接経費上限額。別途、間接経費30%）

【2年枠】

期間： 最長2か年度（フェーズⅡにより実施）

費用： 単年度2,000万円（直接経費上限額。別途、間接経費30%）

採択評価の主なポイント

重点領域型研究開発 (ICT重点研究開発分野 推進型)	<ul style="list-style-type: none">研究開発目的が社会的課題の解決に資するなど、妥当なものであるか。研究開発の内容は先進的なものであるか。研究開発手法が妥当であるか。研究開発成果が、ICTによる新たな価値の創造や社会システムの変革をもたらすものか。 <p>(2年枠)(上記に加え)</p> <ul style="list-style-type: none">研究開発成果が、技術実証・社会実装を意識したものであるか。
ICT研究者育成型 研究開発 (中小企業枠)	<ul style="list-style-type: none">中小企業の斬新な技術の発掘・発展の観点で評価できる研究開発か。
電波有効利用促進型 研究開発	<ul style="list-style-type: none">新しい電波利用の実現に向けた研究開発か。以下のいずれかの技術であって、おおむね5年以内に開発される技術として到達目標が明確に設定されているか。<ul style="list-style-type: none">○周波数を効率的に利用するための技術○周波数の共同利用を促進するための技術○高い周波数への移行を促進するための技術 <p>【先進的電波有効利用型(社会展開促進型)】(上記に加え)</p> <ul style="list-style-type: none">電波を用いたIoTシステムの構築を目指した研究開発、新たなワイヤレスビジネスの創出や社会実装を意識した研究開発か

詳細は提案要領及び評価の手引きをご参照ください。